

| 学年 | 教科等 | 題材名 | 日時 |
|--------------|--|---------|------------------|
| 第3学年 | 音楽科 | 世界の歌めぐり | 令和元年11月13日(水)5校時 |
| 本時における「深い学び」 | 教材曲「雪のおどり」の曲のイメージに合った楽器の音色や音の重ね方をどのようにするか、仲間と音を介した対話をしながら試行錯誤して考え、思いや意図をもって表現する学び。 | | |

子どもが主体的に音楽と向き合うための題材構成の工夫

【題材の教材曲とのつながりのある曲の挿入】

「メッセージ」という歌唱曲を新たに導入した。各国の言葉が挿入されており、世界の歌をめぐる学習の雰囲気づくりだけでなく、「反復」や「呼びかけと答え」など本題材の教材曲にある音楽の構造を理解するための手助けとなる曲である。子どもが音楽の構造を理解し、既習事項とつなげて音楽のよさや楽しさを実感できたとき、主体的に音楽と向き合うことができるのではないかと考えた。

【比較することを意識した学び】

題材全体をとおして、「比較」することを大切にする。前時までは、既習曲を比較して拍の流れの違い、共通点から音楽の特徴を捉えた。本時では導入で日本やフランスの「雪」にちなんだ曲を鑑賞し、曲の感じの違いを感じ取り、同じ雪でも曲や歌詞からイメージされるものが違ってくることを意識させることで、本時学習へ主体的に取り組むための意欲付けをした。

「比較して考える」という学び方が、どれほど子どもたちに身に付いていて、またそれが学習において効果的だったかは、子どもの発言だけでは十分に見取ることができなかった。感じ取ったことを言葉だけでなく、歌ったり演奏したりして表現することや、導入の聴き比べで得たことを展開につなげるなどして、子どもの思考を深めていきたい。

豊かな表現をつくり上げるための対話の在り方

曲のイメージの共有（歌詞や曲想から）



なるほどね。僕は街に降る雪をイメージしたよ。

やさしくて、パラパラって降る雪の感じだと思うな。



クリスマスの夜に、街の灯とともに賑やかに降っている雪をイメージしました。

それってどんな雪なのか、歌いながら雪の動きを手で表してみようか。

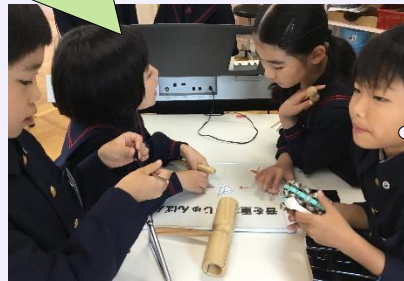


軽く細かくパラパラと、こんな感じかなあ。

グループで楽器の音色や音の重ね方について追究

最初は静かな感じで、トライアングルから始めて、だんだん賑やかにするとクリスマスみたいだよ。

トライアングルと音色が似ている鈴をたすのはどうかな。



このような音の重ね方になったのはなぜかな。

木琴や鉄琴が後で入ると、にぎやかになるよ。



こんなふうに音が重なると、きれいだな。

★授業をふりかえって★

前期の授業研究会での反省を受けて、個人の思いを表現する場や、対象となる音楽とじっくり向き合う時間の確保を行った。個々に曲のイメージをもち、ペアやグループで対話し、話し合い自体は深まったように見えた。しかしグループで音の重ね方を工夫する際、曲のイメージを根拠に対話する姿が少なくなっていた。子ども一人一人の思考を見取ったり、ふりかえりや評価に生かすために学習プリントに書かせたり、子どもが本時のゴールイメージをもつことができるような手立てを講じる必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

授業実践計画

6 題材指導計画（9時間）

| 段階 | 主な学習活動及び学習内容 | 教師のかかわり | 具体的な評価規準 | |
|-------------|--|--|---|--|
| 生み出す (2) | <p>1 日本と世界の遊び歌を鑑賞し、聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有し、題材のゴールイメージをもつ。 （1時間）</p> <p>○ 題材のめあて 曲に合った表現をしながら、世界の歌や遊びを楽しもう。</p> <p>○ 「メッセージ」（本題材全体） ○ 「キパパーキ パパパ」 ○ 「半月」</p> <p>2 様々な手合わせ遊びをしながら、拍の流れによって歌う。 （1時間）</p> <p>○ 「十五夜さんのもちつき」 ○ 「あつい豆がゆ」 ○ 「陽気なかじや」</p> | <p>○ 「かえるのうた」や「アルプス一万尺」が他国の民謡であると知らせることで、世界の国の歌を身近に感じたり興味をもったりすることができるようにする。</p> <p>○ 本題材では常に世界地図を掲示し、歌ったり鑑賞したりした国に印や気付きを書き込んでいく。そうすることで、自他国の音楽の特徴やよさを味わうことができるようにする。</p> <p>○ 他国の挨拶が入った「メッセージ」を歌わせることで、フレーズのかけ合いを楽しみながら他国の言語に触れることができるようにする。</p> <p>○ 各国の言葉を聴き取り、歌の真似をしたり身体を動かす活動を取り入れたりすることで、言葉のリズムや曲想を感じ取ることができるようにする。</p> <p>○ 「十五夜さんのもちつき」は、動きが複雑なため、一つ一つの動きを確認することで、どの子どもも無理なく拍の流れに合わせて手合わせをしながら歌うことができるようにする。</p> | <p>○ 世界の遊び歌に親しみながら、拍の流れやリズム等それぞれの特徴を感じ取る学習に進んで取り組んでいる。 （態度） 【観察・発表】</p> <p>○ 手合わせ遊びをとおし、2拍子や3拍子の拍の流れを感じ取っている。 （思・判・表） 【観察】</p> | |
| | 挑む (6) | <p>3 3拍子を感じながら「陽気なかじや」を歌いながら手合わせ遊びをする。 （1時間）</p> <p>○ 相手や速度を変えた手合わせ ○ 弱起の入り方・手合わせの動き</p> <p>4 「雪のおどり」の曲想を捉えて、輪唱で歌ったり演奏したりする。 （3時間）</p> <p>○ 範唱を聴いて、曲想や曲の特徴（調、2拍子、繰り返される言葉やリズム）の聴取と歌唱（1） ○ 伴奏の楽器のリズムと旋律の確認（1） ○ 曲想に合った前奏づくり（1）</p> <p>5 「マンガニ、雨とおどろう」の旋律を歌い、曲想を捉えながらリズムを加えて演奏する。 （2時間）</p> <p>○ 旋律と楽器のリズムの確認（1） ○ 二部合唱とリズム楽器の演奏（1）</p> | <p>○ 3拍子の拍の流れを感じ取らせるために、曲に合わせてステップをふんだり手拍子を入れたりする。</p> <p>○ 二人組で手合わせをする際に気を付けるべきことを確認し、それが集団で音楽を奏でる際に重要な視点であることも捉えられるようにする。 ・ 一定の速度 ・ 強拍・弱拍のめりはり ・ 曲想に合った表現</p> <p>○ 「陽気なかじや」との比較をすることで、3拍子との違いや短調であることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 音の動き方に注意してピアノ伴奏をじっくり聴かせることで、様々な雪の様子が想像できるようにする。</p> <p>○ 前奏で使う楽器に十分ふれさせることで、楽器の音色やリズムを感じながら音を重ねる学習につなげられるようにする。</p> <p>○ 「雪」「雪は踊る」等、日本や外国の雪にまつわる曲を鑑賞させ、比較して曲想の違いを感じ取らせることで、曲のイメージを広げて前奏の音色の工夫をすることができるようにする。</p> | <p>○ 速度が変化しても3拍子の拍の流れを感じながら曲想に合った歌い方をしている。 （知・技） 【観察】</p> <p>○ 拍の流れや曲想に合った前奏の音色や音の重ね方を工夫し、どのように演奏するか思いや意図をもっている。 （思・判・表） 【観察・発表】</p> |
| 生かす (1) | | <p>6 これまでの学習をふりかえり、それぞれの曲の特徴やよさを感じながら他国の歌を聴き、感想を交流する。 （1時間）</p> <p>○ 他国の歌の鑑賞 ○ 本題材の学習のふりかえりと感想の交流</p> | <p>○ まだ学習していない地域の歌を鑑賞させる際、これまで学習した国の歌と似ているところを見付けさせることで、それぞれの国の音楽的特徴をつかむことができるようにする。</p> <p>○ 各国の遊び歌のよさや本題材における自分たちの演奏について学習プリントにまとめ、互いの感想を交流させることで、これまでの学習の成果を実感できるようにする。</p> | <p>○ それぞれの国の音楽特有のリズムや曲想の違いを味わって鑑賞している。 （思・判・表） 【学習プリント】</p> |

本時
(3/3)

7 本時の目標

曲に合った前奏をどのように演奏するか考え、楽器の音色や組み合わせを工夫することができる。

8 指導過程

| 学習活動及び学習内容 | 教師のかかわり |
|---|--|
| <p>1 雪をモチーフにした曲を数曲と『雪のおどり』を比較して聴き、曲の感じを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雪をモチーフにした曲の鑑賞 <p>2 本時学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>曲の感じに合った前奏を工夫してつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲のイメージについての話合い ・ グループでの前奏づくり ・ それぞれの前奏の聴き合い <p>3 『雪のおどり』を歌唱し、曲想について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『雪のおどり』の輪唱 ○ 歌詞から感じることやイメージの共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア対話 ・ 全体での共有 <p>4 曲想を捉えて各グループで前奏づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音の重ね方や音色についての話合い ○ 個人またはグループで思いに合った音の追究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「雪って、少しずつ降って積もっていくから、最初は静かな鈴から入って、他のパートが重なっていくようにしようかな」 ○ 全体で各グループのイメージを基にした前奏の聴き合い <p>5 学習をふりかえり、次時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想の発表と共有 ○ 次回曲の国の確認 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 雪をモチーフにした曲を比較して聴かせることで、短調の感じや繰り返される旋律の特徴を感じながら曲のイメージを広げることができるようにする。 ○ 前時までに楽器で伴奏を練習したことを想起させ、前奏は音色や音の重ね方を工夫することを伝えることで、学習への期待感をもつことができるようにする。 ○ 学習活動を書いた短冊を提示しながら活動の順序を確認することで、曲のイメージから前奏をつくるというつながりを理解できるようにする。 ○ 「『こんこん』の部分はどんなイメージかな。」と問うことで、曲想に合った声の出し方について思いをもつことができるようにする。教師が声の出し方を例示したり体の使い方を示したりする。 ○ ペア対話では雪そのもののイメージだけでなく、子どもたちや周りの風景等について話している子どもを称賛することで、視野を広げて対話ができるようにする。 ○ 出された意見を他の子どもに別の言葉で言い直しをさせたり、付け加えさせたりすることで、全体でのイメージの共有を大切に、楽器での前奏づくりにつなげることができるようにする。 ○ 各グループにホワイトボードと楽器カードを配付することで、音を重ねる順番や強弱等について仲間と確認しながら練習できるようにする。 ○ 表現の工夫の仕方が分からない子どもに対しては、奏法や強弱を変化させると感じが変わることを音を鳴らしながら試させることで、イメージと表現をつなげることができるようにする。 ○ 音の重ね方や強弱を変えたりして、どのように表現の工夫をするか音を介して対話している子どもの姿を価値付け、全体へ広げる。 ○ 曲のイメージとどうつながっているのかを考えながら聴くよう伝えることで、表現の工夫をするよさを味わうことができるようにする。 ○ 次時はアフリカの音楽に、リズム楽器を加えながら合唱に取り組んでいくことを告げることで、学習への見通しと期待感をもつことができるようにする。 |

9 本時の評価規準

曲のイメージを基に楽器の組み合わせや音の重ね方、音色をどのようにするかについて考え、思いや意図をもって演奏している。
(思考・判断・表現)【観察・ホワイトボード】